

## 長野県新総合交通ビジョン検討委員会（北信地域・意見交換会） 議事要旨

- 1 日 時 平成 24 年 5 月 31 日（木）午後 3 時～ 4 時 30 分
- 2 場 所 飯山市公民館（2 F 講堂）
- 3 出席者 （敬称略、順不同）：26 名

### 【地元市町村長】

氏 名	所 属 等
タナカ シゲオ 田中 重雄	中野市総務部長（中野市長代理）
アダチ マサル 足立 正則	飯山市長
タケフシ シンカ 竹節 義孝	山ノ内町長
キカワ シュウジ 芳川 修二	木島平村長
トイ トシオ 富井 俊雄	野沢温泉村長
イシザワ キト 石沢 清人	栄村住民福祉課長（栄村長代理）

### 【検討委員】

氏 名	所 属 等
クロカワ タケン 黒川 洸	一般財団法人 計量計画研究所 代表理事
アオキ ミ 青木 真美	同志社大学商学部 教授
クボタ カツシ 久保田 勝士	長野県町村会総務文教部会（高山村長）
スズキ フミヒコ 鈴木 文彦	交通ジャーナリスト
タカセ タツオ 高瀬 達夫	信州大学工学部 准教授
マシヤマ ヨリコ 益山 代利子	松本大学 総合経営学部 准教授
ミズモト マサトシ 水本 正俊	社団法人 長野県経営者協会 専務理事
ヤナギサワ シンヤス 柳澤 吉保	長野工業高等専門学校 環境都市工学科 教授

【オブザーバー】

氏名	所属等
タカハシ ツネオ 高橋 恒男	国土交通省 北陸信越運輸局 長野運輸支局長 (国土交通省 北陸信越運輸局 企画観光部長代理)
ヤナギヤ サトシ 柳谷 哲	国土交通省 関東地方整備局 長野国道事務所長 (国土交通省 関東地方整備局 企画部長代理)
オノダ ミツル 恩田 充	国土交通省 中部地方整備局 企画部 企画課長補佐 (国土交通省 中部地方整備局 企画部長代理)

【説明者】

氏名	所属等
ヤナギサワ ナオキ 柳澤 直樹	北信地方事務所長
サカグチ カストン 坂口 一俊	北信建設事務所 整備課 計画調査係
シライ ユウジ 白井 祐二	北信保健福祉事務所長

【事務局】

氏名	所属等
ホッタ フミオ 堀田 文雄	長野県 企画部 交通政策課長
ワタナベ タカヒデ 渡辺 高秀	長野県 企画部 交通政策課 課長補佐
ホソカワ ヤスシ 細川 康	長野県 企画部 交通政策課 課長補佐兼交通企画係長
ウツノミヤ キヨシ 宇都宮 純	長野県 企画部 交通政策課 課長補佐兼空港活性化係長
イシダ ヨシノリ 石田 喜則	長野県 企画部 リニア推進振興室 リニア推進主幹
ミズマ タケキ 水間 武樹	長野県 建設部 道路建設課 企画幹兼計画調整係長

4 黒川委員長あいさつ要旨

首長のみなさま、ご多用のところ、お集まりいただきありがとうございます。我々この委員会は、知事より15年先を見据えた新しい交通ビジョンを作れということで活動しておりますが、そのためには、それぞれの地域のみなさまにお集まりいただき地域の課題等を聞いてから作りたいたいと思ひまして、このようにお集まりいただいている次第です。短時間ではございますが、そういう趣旨をお汲み取りいただき議論をさせていただきたいと思ひますので宜しく願ひいたします。

## 5 会議事項

### (1) 管内の概況について

#### ア 北信地域の概況について

資料1に基づき、柳澤北信地方事務所長から説明があった。

#### イ 長野国道事務所管内の概況について

資料2に基づき、柳谷長野国道事務所長から説明があった。

#### ウ 北信地域の道路整備状況について

資料3に基づき、坂口北信建設事務所担当係長から説明があった。

### (2) 意見交換

以下のとおり、出席者による意見交換が行なわれた。

#### (田中 中野市総務部長)

高速道路のインターチェンジ等への道路アクセス等については、大型連休等の帰省時等に、信州中野 IC 前の交差点から志賀中野有料道路が渋滞する状況である。

JRについては、通勤通学の利便性向上のため、駐車場を市単独で拡充した。平成26年度末までに長野以北並行在来線が運行されるが、運賃値上げを危惧している。

長野電鉄については、長野線沿線の活性化協議会でアンケートや車内広告を掲示したり、シンポジウムも開催した。

長電は重要な公共交通で、二酸化炭素削減の効果もあり、積極的な行政の関与が必要と考えている。

道路建設では、広域市町村連携等にも重要な役割を果たす「仮称 笠倉壁田橋」の早期竣工が望まれるところである。また、豊田飯山線のバイパスを切望する。

バスは公共交通対策協議会を設置して取り組んでいる。行政、企業、住民ともに取り組む課題である。

#### (足立 飯山市長)

観光がメインの地域で、いかに北陸新幹線を活用して、観光振興を中心に地域の発展を図るのが課題。

北信の広域の6市町村と新潟県妙高市、飯綱町、信濃町の9市町村で連携している。飯山市の中心から、全ての市町村の中心まで、30分の交通圏を考えようとしている。飯山駅の中心20kmに各市町村の中心が入り、これが交通ネットワークの柱となる。

この地域は、豊富な積雪量に恵まれている。  
管内の利便性の高いネットワークを作ることが必要。  
平成 26 年度の北陸新幹線の開業までに道路改良をお願いしたい。  
信濃町、飯綱町への県道の整備をお願いしたい。  
道路が出来ても、そこから発着する 2 次交通が重要。  
各観光地と新幹線を結ぶことが必要。  
新幹線が出来れば、東京から箱根までと時間的に同じエリアになる。  
箱根は 2 次交通が良く出来ている。  
2 次交通を県のビジョンで議論をお願いしたい。  
高齢化が進んでおり、民間も赤字、自治体でコミュニティバスを運行したり、事業者にも赤字を補填しており、一般会計で 6,000 万円の出費がある。以前は県の補助があった。

(竹節 山ノ内町長)

当町には、長電の終着駅があり、2,500 万円を補助し成田エクスプレスの車輛を導入し、特急電車を残している。

町独自に駅に待ち合わせ室を設置して、英語の通訳を常駐させ、英語、ハングル語のパンフを置いてある。地獄谷のスノーモンキーのマークをいれたガイドブックも作った。

外国人は車よりも歩くことが多いので、ピクトグラムを用いた案内看板を設置するなど、ガイドに力を入れている。

町内は坂が多いので、駅に電動自転車 5 台を置き、無料で使えるようにしている。

湯田中駅前に無料駐車場を設置して、「乗って残そう公共交通」に取り組んでいる。

町内には、病院と高校が無いので、18 歳未満の子どもの医療費を無料にし、交通費を支援できない分を補っている。飯山市へは中野市からのバスがあるが、不便で夏は親の送迎や自転車で通っている。冬は共同でマイクロバスを出している。隣の中野市と協力して乗って残すために取り組んでいる。

国、県としての弱者対策をお願いしたい。

(芳川 木島平村長)

国道 403 号と県道飯山野沢温泉線が重要幹線となっている。村内はデマンド交通で運行し、通院者が約半数利用している。

新幹線の開業を目標に、村づくりの方向性として、農村の持つ機能や価

値を大事にしながら時代に活かす取組み、「農を基軸とした交流型産業、農村環境を活かした高い教育づくり、農の持つ癒し機能を活用した農村型介護福祉」を進めている。その一環として3つの施設「農の拠点施設、農村文明塾、農村型介護福祉施設」を計画した。それぞれ都市との交流を伴う事業であり、新幹線飯山駅の開業により大変便利になる。特にその中で農の拠点施設については、国道403号線に接しており、中央橋の工事は進んでいるが、その先の飯山市木島の改良計画が進まず、効果的な改良にならないと思う。

新幹線飯山駅の開業までに拡幅工事が完了することで、駅までの村内からのアクセス、あるいは山ノ内町及び野沢温泉村方面からのアクセスも飛躍的に良くなると思われるので、検討いただき特段の御配慮をお願いしたい。

(富井 野沢温泉村長)

観光で生きてきた村で、交通としては、国道117号が重要で、一方は、新潟県の越後湯沢に、もう一方は長野へと抜ける。災害があった時にどちらかに逃げられるようにと考えており、村のパンフには両方示している。

村の職員には、東京に行く時は越後湯沢の駅を使うように言っている。その方が安いし、早い。飯山駅が出来たら悩ましいところ。

廃止代替バスは2路線あるが、ルートを変えたら補助できないというのが、県の考え。

新幹線新駅へのアクセスは直行バスを想定しているが、停める所があるのか、無ければ長野駅に行くことになる。

道路関係も整備してもらいたい。

(石沢 栄村役場住民福祉課長)

廃止代替バスも以前はあったし、越後交通にも補助している。

村営バスと越後交通に3,000万円補助していた。経費を圧縮しようとして、村営バスをデマンドに変えて地元のタクシー会社に委託した。経費の圧縮は出来たが、予約制は高齢者には、評判が良くなく、燃料費も高騰してきた。

村の持ち出しも以前と同じ水準となった。JRとバスで約4,000万円を負担している。平年の予算規模が20億円の村の財政では、負担が大きい。

中山間地域での運行コストがかかる。高齢者、障害者、児童、生徒の足の確保のための財政支援を望む。

(委員)

栄村の31の集落には、大小あると思うが、何人の幅があるか。

(石沢 栄村役場住民福祉課長)

役場に近いところは、100世帯で約200人、秋山郷の中の五宝木という地区は、冬期は積雪のために道路が確保できないため、冬期間は、住民が役場近くまで降りてきて生活をしている。他に小さい所は3世帯。デマンドで乗り入れると枝線が増えて、費用も増える。

抜本的な見直しをしたい。

(委員)

デマンドのルートは決まっているのか。

(石沢 栄村役場住民福祉課長)

ルートは決まっていて、予約があればそのルートを走る。

(委員)

飯山駅開業で、着地型商品の開発状況はどうか。

また、どこの交通網の整備が必要になるか。周遊型を考えた時どの程度県に要求をするのか。

(足立 飯山市長)

自分達のエリア内にそれぞれの観光協会があり、協会内で考えている。エリアで考えることは少ない。

道路は横に動くネットワークだが、エリアが広がれば難しい。小さなマイクロバスを利用するなど、用途ごとに考える必要がある。

とりあえず、駅から各地の中心地へとシャトルバスを運行させることを考えている。

飯山駅前には、大型バスが5台位、止められるように考えている。

(委員)

野沢温泉村の廃止代替バスの補助はどういうことか

(富井 野沢温泉村長)

補助ではなくて、特別交付税のこと。

(事務局)

特別交付税であれば、運行するバスが全て対象となる。

(委員)

飯山駅開業のインパクトは大きい。地域の中の高齢者のニーズに応えな  
いといけない。観光も考えて、いずれも成り立たせるのは難しい。

持続可能な公共交通のためには、どうするのか。デマンドは、よそから  
来る人には使えない。

公共交通がデマンドになっていると、よそから来る人にはどう対応する  
のか。

栄村の村内には、タクシーが何台あるのか。

(石沢 栄村役場住民福祉課長)

乗合タクシーが2台、一般のタクシーが4、5台位である。

(竹節 山ノ内町長)

観光用に町内の温泉地を回るバスを運行していて、女将がガイドを務め  
る女将バスなどを走らせている。

デマンドは要望があって、県営住宅、町営住宅に乗合タクシーが回るル  
ートとして運行したが、半年間、乗る人がほとんどいなかった。バス運  
行の要望はあるが今はいい、ということだった。

現状では、福祉タクシー券、バス・電車利用券を利用して、お年寄りが  
中野市の北信病院に多く通っている。

(足立 飯山市長)

交通が一番の課題。箱根に行くには色んなルートがある。新幹線を使う  
と便利になる。

デマンドは観光地と違う所を回る。

交通は生活圏域を回る。安全な公共交通のためには、高いコストでもや  
らざるをえない。ある意味、規制が強い分野。

日本の観光の国際化を考える時に考えるべき問題。

地域内を移動する場合、新幹線の料金と同じぐらいタクシー料金がかか  
っている。

観光交通と生活交通の両立は難しい。

鉄道等を含めた交通ネットワークの形成は現状では厳しい。

市町村の狭いエリアでの解決は難しい。人口が少ない所では厳しい。

(委員)

具体的にはっきり言ってもらいたい。

(足立 飯山市長)

ハード整備はあるが、その上を走る運行の仕組みが最大の課題。県で観光の活性化や高齢化への支援をお願いしたい。

(委員長)

地元の観光協会が邪魔をされていて、県に何とかというのはおかしい。どこをブレイクスルーするとよいか。

(足立 飯山市長)

観光の関係は9市町村を一つのエリアとして連携の組織ができた。観光協会も参加してもらい、まとめて利便性をPRしてもらいたい。  
一つの方向に向かって進めていきたい。

(富井 野沢温泉村長)

この地域は、スキー産業が中心だが、シーズン中は、シャトルバスを運行して、スキー券の割引も行っている。これを膨らませていくのが行政の課題。通年は、市町村ごとの観光資源が別なので、一体としての取組は難しい。季節限定で(一体として)動かせるものを作ることから始める。

(委員)

栄村の広域観光圏の新しいことは何か。

(石沢 栄村役場住民福祉課長)

観光のPRはやっていたが、担当外のことなので、具体的な施策は承知していない。

(委員)

道路整備について、災害に強い道路整備とあるが、災害の多い地域ではないか。

救急搬送で困ったことはないか。また、これまで冬期に道路が遮られて困る点はあったのか。

(白井 北信保健福祉事務所長)

豪雪地帯で日照時間が短いので、ドクターヘリの出動は、人口比では少ない。栄村の秋山郷という集落では、冬は、新潟県の十日町市の救急車が来るし、逆に新潟県の津南町にこちらの救急車が行くことがある。

(委員)

長野電鉄の見通しはどうか。

(田中 中野市総務部長)

乗っていただかないとだめ。これまでは、収入が減ると運賃を上げてきたので高い運賃の路線となっている。この地域では、通勤通学に必要な路線。中野市等によって長電の経営だけでなく、地域の活性化に向けて取り組んでいる。未熟なことあるが、乗っている人へのアンケートを実施して、どうすれば利便性が向上するかなどは、長電に改善してもらっている。

沿線には、豊富な観光資源やイベントがあるので、PRし合うようにした。

昨年度は、シンポジウムもやったが、継続して取り組んでいきたい。